

1. 課題名 6月収穫ブロッコリーの栽培技術検討 ～非農家から農家へ～

2. 目的

徳島県では近年、ブロッコリーの生産が大きく伸びており、4月どり、5月どり等出荷期間の長期化技術が普及してきた。現在は、6月収穫の技術確立と普及が県内産地の課題となっている。6月収穫の技術的課題としては、収穫時等の高温により①花蕾の品質低下②収穫期間の短期集中が挙げられ、それら対策を検討し、産地の課題解決を図るとともに就農に向けた技術習得の場とした。

3. 実施方法

- ・試験内容：(平成29年3月3日～6月28日実施 栽培面積0.9a)

試験1 花蕾の品質低下対策

- 1) 花蕾腐敗病等病害対策 2回防除・3回防除区の設置
- 2) 生理障害対策 ・メリット(赤)(P・K中心の液肥)の葉面散布
・ブロッコリーハット(タイベックの花蕾被覆)の設置

試験2 収穫期間の短期集中対策

マルチ(シルバーマルチ)の有無、定植日の早晚(3/28 4/13)、品種(SK9-099・おはよう)の8要素を組み合わせることで、収穫の分散・長期化が可能か検討

- ・栽培方法：徳島県の栽培基準に準ずる(元肥：23.8-20.3-20.7kg/10a 追肥：5.0-0-5.0kg/10a)
- ・調査項目：病害発生率・生理障害の発生状況・草丈・葉数・最大葉幅・収量・収穫時期

4. 結果

試験1 花蕾の品質低下対策

- ・農薬の防除回数に有意差は無かったが、病害は発生しなかった。また、葉害も発生しなかった。(図2)
- ・花蕾発生後のメリット(赤)の葉面散布(1週間間隔 3回)により、花蕾の小葉が2割減少した。
- ・ブロッコリーハットは、花蕾の乱れを抑え、品質低下を防ぐことが分かった。

試験2 収穫期間の短期集中対策

- ・マルチ栽培は、慣行区との品質差が無く良好であり、ブロッコリー栽培に活用できる。
- ・3/28定植の収穫は5/29～6/8と11日間であった。マルチ有無の比較では、慣行区よりマルチ区で品種比較ではSK9-099で収穫の前進化傾向がみられた。
- ・4/13定植では、6/3～6/28と26日間の収穫が可能であった。SK9-099ではマルチをすることで、9日・おはようでは4日間の収穫の前進化が見られた。品種比較では、マルチ栽培はSK9-099がおはようより5日早く収穫することが出来、マルチ無しでの品種間差は見られなかった。
- ・これらの8要素の組み合わせにより、5/29～6/28までの31日間収穫することができた。

5. 考察

- ・防除回数の有意差はなかったが、高温多湿でも予防的な防除によっても花蕾の病害を抑制したと思われた。
- ・メリット(赤)による花蕾の小葉抑制は、PKの吸収による草勢抑制が要因として推察された。
- ・ブロッコリーハットは、高温期の花蕾の品質低下を抑制する有効な手段であると考えられた。これは、タイベックによる高温抑制、ゴムの弾性による花蕾の整形などが要因として考えられた。今後、詳細な要因分析、

病害対策、生理障害対策への応用について追究していく。

- ・定植の早晚、品種、マルチの8要素の組み合わせは、収穫の分散・長期化が可能で栽培面積の拡大、労働の分散化などの効果が期待され、6月収穫の安定生産に有効な手段であると考えられた。

6. 主要なデータ

表1 病害の発生状況

	花蕾腐敗病	その他病害	葉害
2回防除区	0%	0%	0%
3回防除区	0%	0%	0%

表2 収穫期間の比較（3月28日定植）

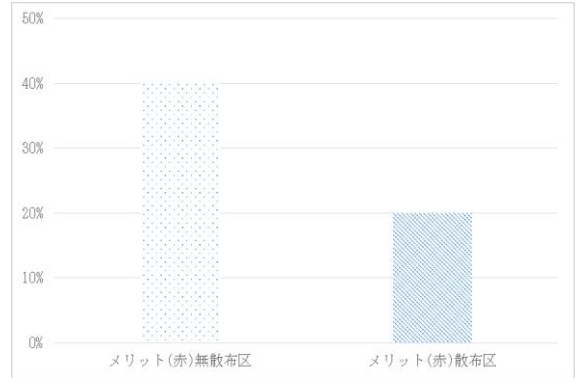
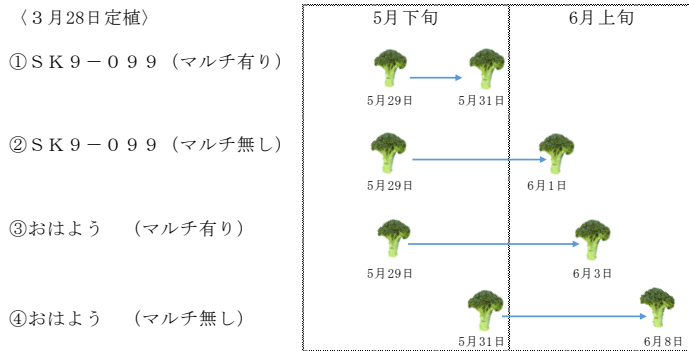


図1 花蕾の小葉発生

表3 収穫期間の比較（4月13日定植）

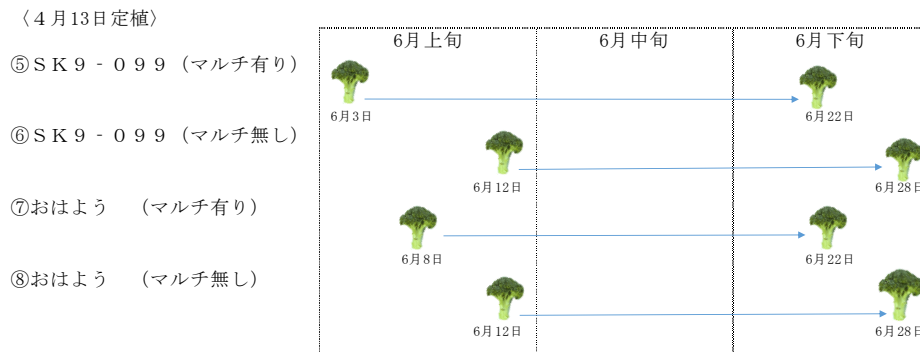


写真1 ブロッコリーハット有りの花蕾



写真2 ブロッコリーハット無しの花蕾